



出会い

唐 雨 兰
TANG YU LAN

私は、縫製の仕事が好きです。一枚一枚の布を縫い合わせていくと、一つの商品ができます。16歳の頃から縫製の仕事を始めて、今日本にきています。出産後は、仕事を少しやめました。でも、運命なのでしょうか。結婚して引っ越した家のすぐそばに縫製工場が。ミシンの音。赤ちゃんの子守唄は、私の歌です。同じように、私にとってミシンの音は子守唄。吸い込まれるように私はまた、縫製の仕事を始めました。

「日本へ行くと、もっと技術が磨けるよ。」上司の言葉を聞き、日本へ行くことを決めました。家族も賛成。娘は「早くいってきて。」と私に言いました。かわいい一人娘に、言われるのは少しさびしかった。

日本の会社の周りは、花や草、色々な木があります。空は青くて空気がきれい。寮には先輩もたくさんいます。私は安心しました。

実習が始まり、会社で働いている日本人の責任ある真面目な仕事姿に驚きました。私は日本語の能力が不足しています。日本人は、私ができるように丁寧に教えます。日本語は分からない事が多いですが、工作中たくさん技術を勉強できることが、とてもうれしいです。1年生の私ができることは、一つずつ真面目に仕事をすることです。

今、私はショーツを縫製します。中国と違い、日本では決まった時間に商品を検査します。そ

の時間になると、中国語の放送を聞きます。私は放送を聞いて検査します。糸調子、生地不良、ラベル、ネームの確認など、いろいろあります。一枚の商品を完成するのに、どれだけ検査をしているのか、考えてみました。まず、裁断前の生地を検査。縫製中の工程検査。抜き取り検査。縫製後の全数検査。包装後のパッケージ検査。検針機。他にも色々あります。お客様に届くまで、何度も検査を重ねます。お店で商品を買うお客様は知りません。お客様は、良品を買うことが当たり前です。私たちの仕事は良品を生産することです。でも注意をしても、ミスがあります。その時は、どうしてそのミスが出たのかみんなで話し合います。同じことが二度と起きない為に、みんな努力します。日本の技術・品質が世界一と言われるのは、毎日の努力です。中国人は器用ですが、品質管理は不器用です。どうしてそこまで品質にこだわるのか。日本人は本当に細かいと思います。でも、一枚の商品に対する従業員一人一人のこだわりが「日本製」です。三年後、私は中国へ帰ります。技術指導者として努力することは、「中国製」というブランドを作ることです。「日本製」というこだわりに、私のこだわりを付け加えたい。私の三年後が楽しみです。